

令和 8 年 6 月 19 日

沖縄総合事務局運輸部

運輸部長 殿

久米島オーシャンジェット株式会社

代表取締役会長 下地幹郎



業務改善報告書

1. 事故概要

令和 8 年 5 月 2 日、那覇港～久米島兼城港航路に就航中のジェットfoil「オーシャンジェット」が兼城港港内において水中翼（ストラット）を海底に接触させる事故を発生させました。

人的被害はありませんでしたが、船体損傷により運航停止となり、お客様及び関係者の皆様に多大なるご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。

2. 事故原因

社内事故調査及び関係者からの聴取を実施した結果、事故原因を以下のとおり整理いたしました。

- （１）兼城港内でこれまでと異なる位置において、水中翼を降下させることについて十分な安全検証が行われていなかった。
- （２）強風による横流れを考慮し、通常航路より風上側を航行した結果、自船位置の確認が不十分となった。
- （３）GPS プロッターが設置されていたが、十分に機能が活用されていなかった。
- （４）定時運航に対する意識が強く、安全に対する余裕を持った運航判断ができなかった。
- （５）出港時の作業終了後、一等航海士が安全ベルトの着用確認など客室業務を実施していたため、船橋における相互監視体制が機能していなかった。

3. 警告事項に対する改善措置

（１）経営トップによる改善策

経営トップは、「安全最優先」を経営の基本方針として明確に掲げ、定時運航よりも安全確保を優先する企業風土を醸成する。また、安全統括管理者及び運航管理者との連携を強化し、安全会議や内部監査を定期的を実施するとともに、ヒヤリハット情報の共有、安全教育及び訓練を継続的に推進する。

（２）安全統括管理者の職務徹底

安全統括管理者を中心として、安全最優先の経営方針を改めて全社員へ周知徹底し、安全管理規程の遵守状況について、毎月確認を実施する。

また、安全管理会議を毎月開催し、安全に関する課題及び改善状況を経営層へ報告し、PDCAサイクルによる継続的改善を図る。

安全管理会議（会長、副社長、安全統括管理者、運航管理者、船長、機関長）

（３）運航管理者の機能強化

運航管理者は、運航計画策定及び運航管理業務について安全性の評価を義務付け、運航前確認事項をチェックリスト化する。

運航条件に変更がある場合は、安全統括管理者との協議を経て運航可否を決定する体制とする。

（４）運航計画作成時の安全検討の徹底

港内水深、浅瀬位置、潮流、風向風速等を総合的に勘案したうえで、水中翼昇降区域を明確に指定し、気象・海象条件に応じて安全側で実施する運用とする。

また、航路図、等深線及び危険区域を簡易 ECDIS へ登録し、乗組員全員で共有する。

（５）安全教育の充実

安全管理規程に基づく安全教育を年間計画として策定し、全乗組員及び管理職に対して定期的に実施する。（年間計画の策定・講師の選定・e ラーニング活用含む）

教育内容は、

- ・ BRM（Bridge Resource Management）
- ・ CRM（Crew Resource Management）
- ・ リスクアセスメント
- ・ ヒヤリハット事例共有
- ・ 安全管理規程及び運航基準
- ・ 緊急時対応訓練

とし、教育記録及び理解度確認を実施する。

4 追加再発防止対策

（１）簡易 ECDIS の導入

航海支援装置として簡易 ECDIS を導入し、等深線、危険区域及び航路を画面表示して船位確認を強化する。

(2) 運航時間の見直し

船長に時間的余裕を持った安全運航を行わせるため、全便について運航時間を延長する見直しを実施する。

(3) 船橋当直体制の改善

出港後の客室巡回業務は機関部職員等が担当し、一等航海士は速やかに船橋へ復帰して船橋リソースマネジメントを徹底する。

(4) 情報共有体制

出港前には、ブリーフィングを必ず実施し、当日の気象、海象、朝夕、浅瀬、障害物、離着岸の操船方法等について、全乗組員へ周知し、安全確認事項を共有する。

5 安全管理体制の強化

安全統括管理者、運航管理者、船長及び乗組員による安全会議を毎月開催し、

- ・ヒヤリハット
- ・事故情報
- ・改善事項
- ・教育実施状況
- ・安全管理規程の運用状況

を確認し、議事録を作成して全社員へ周知する。

また、監査員による内部監査を運航再開後速やかに実施するとともに改善状況を経営トップへ報告する。

6 今後の取り組み

当社は、今回の事故を重大な教訓として真摯に受け止め、「安全最優先」を経営の最重要課題として位置付けます。

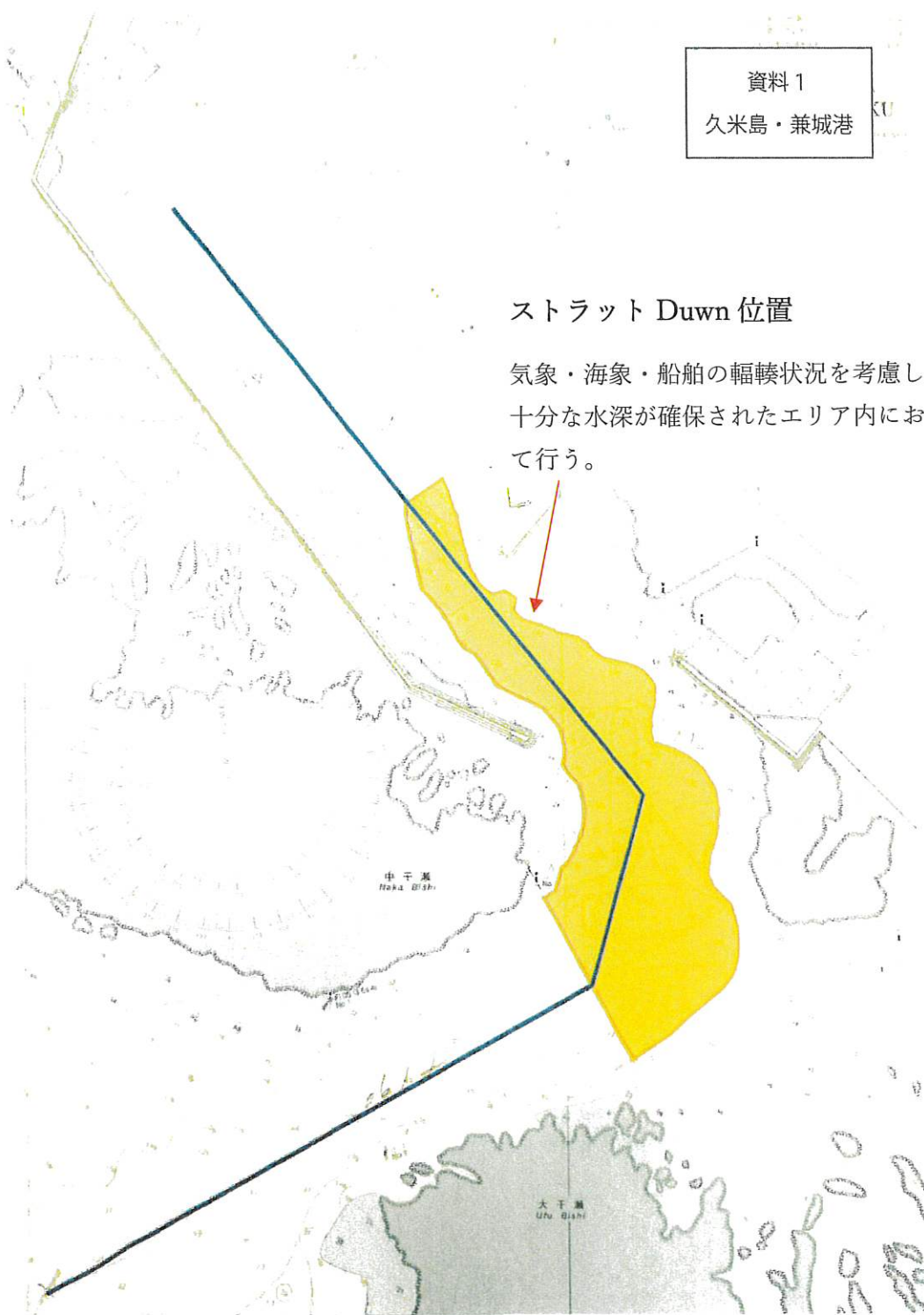
安全管理規程の遵守、安全教育の充実、安全統括管理者及び運航管理者の機能強化並びにPDCA サイクルによる継続的改善を実施し、輸送の安全確保と利用者からの信頼回復に全力で取り組んでまいります。

以上

資料 1
久米島・兼城港

ストラット Duwn 位置

気象・海象・船舶の輻輳状況を考慮し、
十分な水深が確保されたエリア内において行う。



ストラット Duwn 位置

気象・海象・船舶の輻輳状況を考慮し、十分な水深が確保されたエリア内において行う。

